

研究主題

地域に根ざし、持続可能な未来を切り拓く児童の育成
～ ESD の日常的な実践を通して～





はじめに



本校は、E S D（持続発展教育）に取り組み4年目になります。

ユネスコスクールは、E S Dの普及促進のための推進拠点として、次の点を大切にし、改善・工夫を加えながら継続的に教育活動に取り組んでまいりました。

- 持続発展教育（E S D）を通じて育てたい資質や能力を明確にし、自分で、あるいは協働して、問題を見出し、解決を図っていく学習の過程を重視した教育課程を編成するよう努めること
- 総合的な学習の時間を中心とした教科横断的な指導計画を立てるなど、指導内容を適切に定め、さらに、指導方法の工夫改善に努めること
- 持続発展教育（E S D）の推進拠点として、研究・実践に取り組み、その成果を積極的に発信することを通じて、持続発展教育（E S D）の理念の普及に努めること

E S Dでは、「持続可能な社会づくり」の構成概念として、「多様性」「相互性」「有限性」「公平性」「連携性」「責任性」があり、「E S Dの視点に立った学習指導」では「批判的に考える力」「未来を予測して計画を立てる力」「多面的、総合的に考える力」「コミュニケーションを行う力」「他者と協力する態度」「つながりを尊重する態度」「進んで参加する態度」の能力や態度を重視しています。この能力・態度は、本校の学校教育目標とも一致し、子どもたちが現在、そして未来の社会を「築き上げる力、生き抜く力」と言えます。

さらに、平成32年度より小学校で全面実施される新学習指導要領でも子どもたちを「持続可能な社会の創り手」として育成すべきことが示され、「持続可能な社会づくり」の構成概念を基盤とし、E S Dで育むべき資質・能力・態度・実践力等の必要性・重要性が明確化されていてと言っても過言ではありません。

本校では、今年度もE S Dをより日常的に実践するために、昨年度までに作成したE S Dカレンダー及び実践した研究を土台として、各教科や道徳、特別活動等、あらゆる教育活動において実践的研究を継続してきました。

今回、今年度の本校での研究をまとめましたが、あくまでも、子どもたち一人ひとりの力を伸ばす実践研究としてとらえております。今後も本校教職員が丸となり、子どもたち・保護者・地域のためにE S Dの実践的な研究を推進してまいります。

最後になりましたが、これまで、本校の研究に対しましてご指導・ご支援をいただきましたすべての皆様に心より感謝申し上げますとともに、今後とも一層のご指導・ご支援を賜りますようお願いいたしまして、ご挨拶とさせていただきます。

須賀川市立白方小学校長 内山 博行

目 次

～はじめに～

1 研究の全体構想

(1) ESD の視点に立った学習指導～白方小学校の ESD ～ 1

(2) 研究の構想 1 1

2 研究の実際

(1) 各学年の ESD の視点に立った授業実践

② 第 1 学年の実践（生活科） 1 6

③ 第 2 学年の実践（生活科） 2 6

④ 第 3 学年の実践（総合的な学習の時間） 3 6

⑤ 第 4 学年の実践（総合的な学習の時間） 4 6

⑥ 第 5 学年の実践（総合的な学習の時間） 5 7

⑦ 第 6 学年の実践（総合的な学習の時間） 7 0

(2) ESD の視点に立った日常の実践 8 6

3 研究を振り返って（成果と課題） 8 8

おわりに（研究に携わった教職員）